

地域おこし協力隊 活動記 Vol.115

『集落の教科書』

—弘前市相馬地区』を発売しました
地域おこし協力隊は、相馬での暮らしの現状や町会の実情、全住民アンケートの結果をまとめた冊子を作成しました。冊子はA5サイズの32ページで、相馬総合支所にて配布しています。来月、回覧する予定ですのでペラペラとめくってみてほしいと思います。

なぜこのような冊子を作ったのかというと、

- ① 町会長ヒアリングで教えてもらったことや全住民アンケートでわかったことを整理し、まとめたかったから
- ② 転入者や世帯主以外を中心に、町会費や町会活動について知らない住民が意外といることがわかり、知ってもらいたいと思ったから
- ③ 地区外から通勤する行政職員や教職員、農協職員のほか、インターンシップ生などの外部人材の方などが、相馬での暮らしの事を知れる冊子があるといいと思ったから

相馬にお住いのみなさんには、ぜひとも自分の住む町会の実情や取り組みを把握していただくとともに、ほかの町会の

状況や工夫した取り組みを知ってもらいたいです。たとえば、安田では女性の町会長が活躍していますし、藍内・前相馬では町会費を口座振替しています。桐ノ木沢では独自に資源ゴミ回収・処分をして、売却益を出しています。これらを参考に、今後の町会運営や町会の在り方について考えていただければと思います。

また、相馬地区地域おこし協力隊活動応援協議会が主体になってつくろうとしている地域運営組織（農村RMO）についても記述しています。人口減少の時代、これからの相馬の未来を考えると、地区の団体が相互につながり、ネットワークを形成・強化し、互いに

協力していくしかないのではないかと思います。地域運営組織はそのつなぎ役、連携調整を行うものです。『集落の教科書』を読んで、この取り組みにも関心をもつていただけると幸いです。

『集落の教科書』とは…

集落のルール、慣習、生活、魅力などを記した、移住者向けのガイドブックで、京都府南丹市中世木で第1号が作られてから、全国各地で作成されるようになりました。青森県では相馬が初です。

「良いことも、そつでないことも、ちゃんと伝えたい」をコンセプトに、地域のありのままを伝えようとするのが、自治体を作るガイドブックや観光マップとは大きく異なります。

1回の発行で終わらせることなく、改訂を重ね、情報を常に更新していくことが望まれます。

集落の教科書

青森県弘前市相馬地区



作成に協力してくださった町会長のみなさん、ありがとうございました。

